

ワカヤマソウリュウ編 ―どんな生き物？―

有田川町の鳥屋城山で発見されたモササウルスが「ワカヤマソウリュウ」と名付けられてから、12月で1年が経ちます。改めてワカヤマソウリュウとは、どんな生き物であったのか、紹介してみたいと思います。

●モササウルスとは？

ワカヤマソウリュウ（和歌山滄竜^{そうりゅう}）はモササウルス類の新属新種として公表され、学名をメガプテリギウス・ワカヤマエンスと名付けられました。ワカヤマソウリュウは、その和名として付けられたものです。「滄竜」とは、「モササウルス」のことです。モササウルスは、映画ジュラシックワールドに登場し、一躍人気にもなった、大昔の海に住む爬虫類^{はちゅうるい}（海棲爬虫類^{かいせいはちゅうるい}）です。およそ1億年前に地球上に出現し、中生代が終わる6550万年前に、恐竜と共に絶滅してしまいました。ワカヤマソウリュウが生きていた時代は、中生代白亜紀の後期、今からおよそ7200万年前のことです。

●ワカヤマソウリュウは恐竜ですか？

海に住む爬虫類は、「滄竜」モササウルス」の他に

「魚竜^{ぎょりゅう}」や「首長竜^{くびながりゅう}」などが有名ですが、これらの多くはウミガメなどを除いて中生代の最後（6550万年前）に絶滅してしまいました。これらは、よく恐竜と間違えられていますが、恐竜ではありません。恐竜とは、「トリケラトプスとスズメの共通の祖先とその全ての子孫」を指します。恐竜に詳しい方は、「鳥類が恐竜の子孫」という話を聞いたことがあると思います。また、恐竜の体の目立った特徴として「後ろ足が真つすぐ下に降りた、直立であること」が挙げられます（図を参照）。これに対して、モササウルスは、他の爬虫類と同じように、後ろ足が横に広がる「がに股」の特徴であることから、恐竜ではなく、ワニやトカゲ、カメなど爬虫類の仲間であることが分かります。

恐竜類と爬虫類の後足のつきかた

